

# 平成17年度イタリアンライグラス優良品種選定試験

榎堀 善文

## 要 約

イタリアンライグラス 11 品種の特性を比較した。育期間中の気温は、冬季は平年よりやや高く春季は平年よりやや低かった。降水量は播種時期に多く、冬季は平年なみ、春季はやや少なかった。天候不順により播種時期が遅延した。出穂始期は前年に比べ1 番草の全品種で7~18 日、2 番草の早生種で1~5 日・中晩生種で10~20 日遅かった。

極早生種 出穂始期は「さちあおば」が最も早かった。収量は「ミナミアオバ」が多かった。倒伏は「ミナミアオバ」の一部に見られた。

早生種 出穂始期は1 番草で「タチマサリ」がやや早かった。合計収量は「ワセユタカ」が多かった。「ワセユタカ」の2 番草で倒伏が見られた。

中・晩生種 出穂始期は1 番草で「ジャイアント」が遅かった。合計収量は「ジャイアント」が多かった。1 番草の全品種と2 番草のナガハヒカリ・ジャイアントで倒伏が見られた。

## 緒 言

本県に適するイタリアンライグラス優良品種の選定を行う。

## 試験方法

### 1. 試験期間

昭和57年より継続、  
比較品種は原則として3年間。

### 2. 圃場

奈良県農業技術センター  
高原農業振興センター内  
(標高 340 m、年平均気温  
12.9℃)

### 3. 供試品種

表1のとおり  
本県奨励品種7品種、  
対照品種4品種

表1. 供試品種 (\*は試験実施時の奈良県奨励品種)

早晩性	品種名	倍数性	供試年次		
			H15	H16	H17
極早生	ミナミアオバ*	2倍体	○	○	○
	ウヅキアオバ*	2倍体	○	○	○
	ハナミワセ	2倍体	○		
	メリット	2倍体	○	○	○
	さちあおば	2倍体	○	○	○
	ワセアオバ*	2倍体	○	○	○
早生	タチマサリ*	2倍体	○	○	○
	タチムシャ	2倍体	○		
	はるかぜ	2倍体	○	○	
	ワセユタカ	2倍体			○
中・晩生	ナガハヒカリ*	4倍体	○	○	○
	ジャイアント*	4倍体	○	○	○
	アキアオバ*	4倍体	○	○	○
	ムサシ	4倍体	○		
	ヒタチヒカリ	4倍体	○		
	ジャンボ	4倍体	○	○	○

#### 4. 栽培方法

試験区：1区面積 6 m<sup>2</sup> (=3m×2m) 4反復乱塊配置

播種日：平成16年11月9日

播種量：2倍体品種 150g/a 4倍体品種 250g/a

播種法：条播 条間 40cm

施肥量：堆肥 400 kg/a 苦土石灰 2 kg/a 溶リン 8 kg/a

	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	(kg/a)
基肥	0.29	0.36	0.36	
追肥 (各刈取毎)	0.70	—	0.90	

刈取期：出穂期刈を基準とした。

#### 5. 調査項目

「近畿・中国地域 牧草・飼料作物 品種・系統選抜試験実施に関する申し合わせ(昭和57年3月)」および「牧草系統適応性検定試験実施要領(改訂2版)」に準じて調査した。

#### 結果および考察

##### 1. 生育調査(発芽～出穂前)

本年度より栽培地を変更した。従来圃場に比べ勾配があることや播種時期の降雨による影響などから、一部の区画で発育不良が見られた。それ以外の区画ではいずれの品種も発芽および初期生育は良好で、耐寒性にも問題はなかった。

##### 2. 生育調査(出穂～刈取)

具体的数字は表2-1、2-2のとおりである。

#### (概要)

##### a. 極早生群

出穂始期は前年より10~13日遅かった。その中で「さちあおば」が早く「ミナミアオバ」が遅かった。倒伏は「ミナミアオバ」の一部に見られた。

##### b. 早生群

1番草の出穂始期は前年より7~11日遅かった。その中で「タチマサリ」がやや早かった。2番草の出穂始期は前年より1~5日遅かった。倒伏は「ワセユタカ」の2番草で多かった。

##### c. 中・晩生群

1番草の出穂始期は前年より5~18日遅かった。中でも「ジャイアント」が遅かった。2番草の出穂始期は前年より10~20日遅かった。中でも「ジャイアント」・「ジャンボ」が前年に比べ遅かった。倒伏は1番草の全品種に及び2番草の「ナガハヒカリ」・「ジャイアント」に見られた。

表 2-1 生育調査 (1 番草 出穂～刈取)

早晚性	品種名	出穂始期	刈取日	刈取時 出穂程度	刈取時 草丈	刈取時 倒伏程度
		月/日	月/日	1～5 無～極多	Cm	1～5 無～甚
極早生	ミナミアオバ	4/18	4/22	3	86	2
	ウヅキアオバ	4/15	4/19	3	64	1
	メリット	4/15	4/19	4	75	1
	さちあおば	4/11	4/14	3	63	1
早生	ワセアオバ	4/25	4/28	3	82	1
	タチマサリ	4/22	4/26	3	75	1
	ワセユタカ	4/26	4/28	3	85	1
中・晩生	ナガハヒカリ	5/1	5/9	4	126	4
	ジャイアント	5/8	5/16	4	134	4
	アキアオバ	5/2	5/9	3	118	3
	ジャンボ	5/1	5/9	4	122	4

表 2-2 生育調査 (2 番草 出穂～刈取)

早晚性	品種名	出穂始期	刈取日	刈取時 出穂程度	刈取時 草丈	刈取時 倒伏程度
		月/日	月/日	1～5 無～極多	Cm	1～5 無～甚
早生	ワセアオバ	5/16	5/25	4	95	1
	タチマサリ	5/13	5/20	3	86	1
	ワセユタカ	5/16	5/25	4	95	3
中・晩生	ナガハヒカリ	6/3	6/8	4	114	2
	ジャイアント	6/3	6/8	4	98	2
	アキアオバ	6/3	6/8	4	107	1
	ジャンボ	6/2	6/8	4	110	1

### 3. 収量調査

具体的数字は表 3 のとおりである。

(概要)

#### a. 極早生群

乾物収量は前年に比べかなり少なかった。その中で「ミナミアオバ」(39.8kg/a)が最も多く、「ウヅキアオバ」(19.2kg/a)が最も少なかった。

### b. 早生群

1 番草の乾物収量は前年に比べかなり少なかった。その中で「ワセユタカ」(29.9kg/a)が最も多く、「タチマサリ」(19.1kg/a)が最も少なかった。2 番草は前年並みの収量で、「ワセユタカ」(57.8kg/a)が最も多く、「タチマサリ」(37.9kg/a)が最も少なかった。1 番草と 2 番草の収量の合計も同様に「ワセユタカ」(87.6kg/a)が最も多く、「タチマサリ」(57.0kg/a)が最も少なかった。

### c. 中・晩生群

乾物収量は 1 番草で「ジャイアント」(101.5kg/a)が最も多く、「ナガハヒカリ」(67.6kg/a)が最も少なかった。2 番草では「アキアオバ」(59.4kg/a)が最も多く、「ジャイアント」(45.1kg/a)が最も少なかった。1 番草と 2 番草の収量の合計では「ジャイアント」(146.6kg/a)が最も多く、「ナガハヒカリ」(122.2kg/a)が最も少なかった。

表 3 収量調査

早晩性	品種名	1 番草		2 番草		合計	
		生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a	生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a	生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a
極早生	ミナミアオバ	236	39.8			236	39.8
	ウヅキアオバ	104	19.2			104	19.2
	メリット	198	35.2			198	35.2
	さちあおば	120	22.5			120	22.5
早生	ワセアオバ	137	28.6	334	57.1	471	85.6
	タチマサリ	109	19.1	256	37.9	365	57.0
	ワセユタカ	154	29.9	336	57.8	490	87.6
中・晩生	ナガハヒカリ	420	67.6	374	54.6	794	122.2
	ジャイアント	537	101.5	355	45.1	892	146.6
	アキアオバ	443	70.4	391	59.4	834	129.8
	ジャンボ	540	75.1	397	55.2	937	130.3

### 参考文献

- 近畿中国地域試験研究打合せ会議草地飼料作部会：近畿・中国地域 牧草・飼料作物品種・系統選抜試験実施に関する申し合わせ；2～5(1982)  
 農林水産技術会議事務局ほか：牧草系統適応性検定試験実施要領(改訂 2 版)；5～7(1990)  
 竹中ら：奈良県畜産技術センター研究報告第 29 号；12～16(2002)  
 竹中ら：奈良県畜産技術センター研究報告第 30 号；13～25(2003)  
 竹中ら：奈良県畜産技術センター研究報告第 31 号；4～6(2004)